

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014年9月12日(12.09.2014)



(10) 国際公開番号

WO 2014/136146 A1

- (51) 国際特許分類:
G06Q 30/02 (2012.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2013/001500
- (22) 国際出願日: 2013年3月8日(08.03.2013)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (71) 出願人: 楽天株式会社(RAKUTEN, INC.) [JP/JP]; 〒1400002 東京都品川区東品川四丁目1番3号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 鈴木 富美恵(SUZUKI, Fumie); 〒1400002 東京都品川区東品川四丁目1番3号 楽天株式会社内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 大森 純一(OMORI, Junichi); 〒1070052 東京都港区赤坂7-5-47 U&M赤坂ビル 2F Tokyo (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN,

CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーロパ (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 国際調査報告(条約第21条(3))

(54) Title: INFORMATION PROCESSING DEVICE, INFORMATION PROCESSING METHOD, AND PROGRAM

(54) 発明の名称: 情報処理装置、情報処理方法及びプログラム

[図1]

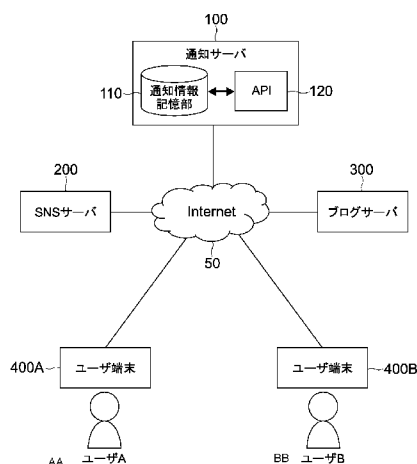


FIG. 1
50 Internet
100 Notification server
110 Notification-information storage unit
120 API
200 SNS server
300 Blog server
400A, 400B User terminal
AA User A
BB User B

(57) Abstract: This information processing device has a storage unit and a control unit. The storage unit stores action information expressing an action from another user toward a user who has accounts for both a first and a second service on the Internet. On the basis of the stored action information, the control unit displays first notification information for notifying the user of the presence of the action in a first display state on the first page for the user in the first service. In addition, the control unit displays second notification information which includes a link to the first service and notifies the user of the presence of the action, in a second display state which differs from the first display state, on the second page for the user in the second service.

(57) 要約: 情報処理装置は、記憶部と制御部とを有する。上記記憶部は、インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶する。上記制御部は、上記記憶されたアクション情報に基づき、上記第1のサービスにおける上記ユーザの第1のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させる。また制御部は、上記第2のサービスにおける上記ユーザの第2のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する、上記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、上記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させる。

明 細 書

発明の名称： 情報処理装置、情報処理方法及びプログラム

技術分野

[0001] 本発明は、インターネット上における複数のサービス間の連携処理を制御可能な情報処理装置、当該情報処理装置における情報処理方法及びプログラムに関する。

背景技術

[0002] 現在、インターネット上では様々なサービスが提供されており、一人のユーザが複数のサービスにアカウントを有している場合もある。例えば、あるSNS（Social Networking Service）を利用しているユーザが、ブログサービスを利用して自身のブログを作成している場合もある。

[0003] また、これらのサービスの中には、そのサービスにアカウントを有するユーザに対する他のユーザからの何らかのアクションを受け付け、それをユーザに通知する情報を表示する機能を有するものもある。例えばSNSにおいては、あるユーザが投稿したコンテンツに対する他のユーザのコメントが表示されたり、当該コンテンツが好き、支持できるといった他のユーザの意思を示す情報が表示されたりする（いいね！またはナイス！機能）。また、ブログサービス（ブログ作成機能を提供するサービス）でも、あるユーザが公開した日記に対して他のユーザが投稿したコメントが表示される。

[0004] ところで、このように他のユーザからアクションがあった場合には、アクションの対象ユーザは、当該アクションの内容をなるべく早く知りたいと思うのが自然である。下記特許文献1には、SNSとブログを連携させて、SNSに登録されている情報をブログ上に表示させたり、ブログに登録された情報をSNSに表示させたりするシステムが開示されている。これによりユーザは、SNSを閲覧しなくてもブログ上でSNSでの他のユーザのアクションに関する通知情報を知ることができ、また逆にブログを閲覧しなくてもSNS上で他のユーザからのコメント等の通知情報を知ることができる。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：特開2007-323311号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] しかしながら、単に同一の通知情報が複数のサービスで表示される場合、ユーザはどれか1つのサービスのページを閲覧すれば当該情報を得られることになるため、サービス間の回遊性が下がってしまう可能性がある。

[0007] 以上のような事情に鑑み、本発明の目的は、インターネット上の複数のサービス間でユーザの回遊性を向上させることができる情報処理装置、情報処理方法及びプログラムを提供することにある。

課題を解決するための手段

[0008] 上述の課題を解決するため、本発明の一形態に係る情報処理装置は、記憶部と制御部とを有する。上記記憶部は、インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶する。上記制御部は、上記記憶されたアクション情報を基に、上記第1のサービスにおける上記ユーザの第1のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させる。また制御部は、上記第2のサービスにおける上記ユーザの第2のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する、上記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、上記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させる。

[0009] これにより情報処理装置は、第1のサービスにおいて表示される通知情報を、第2のサービスにおいて、第1のサービスとは表示形態を異ならせて第1のサービスへのリンク付きで表示することで、ユーザの通知情報に対する興味を引き、第1のサービスへ誘導することができる。これにより第1のサービスと第2のサービスとの間の回遊性が向上する。

ここで第１のサービス及び第２のサービスは、例えばＳＮＳ、ブログサービス、ミニブログサービス、オークションサービス、Ｑ＆Ａサービス、口コミサイトサービス（レビューの投稿が可能なサービス）等、あらゆる種類のサービスで有りうる。また第１のサービスと第２のサービスは同種のサービスであってもよいし、異種のサービスであってもよい。またアクションとは、例えばあるユーザが投稿したコンテンツに対して他のユーザが行う、コメントの投稿、当該コンテンツが好き、支持できるといった意思を示すための操作（いいね！またはナイス！ボタンの押下）、ＳＮＳ上であるユーザと新たに繋がるためのリクエスト送信、あるユーザのコンテンツを自身のＳＮＳページのタイムライン上で表示させる（フォローする）ための設定操作またはそのためのリクエスト送信等をいうが、これらに限られない。

[0010] 上記第１の通知情報は上記アクションに関する詳細情報へのリンクを有してもよい。この場合上記制御部は、上記第１のページで上記第１の通知情報から上記詳細情報へのアクセスが検出された場合に、当該第１の通知情報に対応する上記第２の通知情報が表示されないように上記第２のページを制御してもよい。

[0011] これにより情報処理装置は、ユーザが同一の情報を第１のサービスと第２のサービスの双方で閲覧することで煩わしさを感じるのを防ぐことができる。

[0012] 上記制御部は、上記第１の通知情報に第１の詳細度を有する第１の詳細情報を含ませ、上記第２の通知情報に、上記第１の詳細度よりも小さい第２の詳細度を有し、上記第１の詳細情報へのリンクを含む第２の詳細情報を含ませてもよい。

[0013] これにより情報処理装置は、第２の通知情報の詳細度を小さくすることで、それに興味のあるユーザが第１のサービスの第１の詳細情報へ誘導することができるとともに、通知情報が第２のサービスを利用中のユーザの作業の邪魔になるのを回避することができる。例えば、第１の詳細情報には、ユーザが投稿した記事やコメントの情報及びそれに対してアクションを行った他

のユーザ及び当該アクションの内容等が表示される。一方、第２の詳細情報には、上記アクションの事実のみが、その主体（他のユーザを示す情報）や内容を示す情報へのリンク付きで表示される。

[0014] 上記制御部は、所定数のアクションの存在を示す複数の第１の通知情報を第１の順序で表示するように上記第１のページを制御し、上記所定数のアクションの存在を示す複数の第２の通知情報を上記第１の順序とは異なる第２の順序で表示するように上記第２のページを制御してもよい。

[0015] これにより情報処理装置は、第１のページと第２のページの双方で、同じアクションに関する通知情報がユーザに閲覧されてしまうのを極力防ぐことができる。

[0016] 上記記憶部は、上記ユーザが上記第２のページにアクセスして滞在する時間を所定アクセス分平均した平均滞在時間情報を記憶してもよい。この場合上記制御部は、上記平均滞在時間情報を基に、上記第２の通知情報を、上記ユーザが上記第２のページにアクセスしてから上記平均滞在時間の所定割合の時間が経過したときに表示させるように上記第２のページを制御してもよい。

[0017] これにより情報処理装置は、ユーザが第２のページにアクセスしてから離脱しそうなタイミングで第２の通知情報を表示させることで、ユーザの第２のサービスにおける滞在時間を減らせる（閲覧動作を邪魔する）ことなく、ユーザを第１のサービスにスムーズに誘導することができる。

[0018] 上記制御部は、上記第１のページがアクセスされている間に上記第２のページがアクセスされた場合、上記第１のページで表示された複数の第１の通知情報のうち所定数の第１の通知情報に対応する所定数の第２の通知情報が、上記第２のページで表示されないように上記第２のページを制御してもよい。

[0019] これにより情報処理装置は、第１のページと第２のページとが同時にアクセスされた場合には、第１のページに表示された所定数の通知情報はユーザによって既読とみなし、第２のページではそれら所定数の情報を表示させな

いことで、ユーザが同じ情報を何度も閲覧してしまうことを極力防ぐことができる。ここで所定数とは例えば３個、５個、１０個等であるが、これらに限られない。

[0020] 上記第１の通知情報及び上記第２の通知情報は、複数の異なるアクション毎に、種類の異なる複数の通知情報を有してもよい。この場合上記記憶部は、上記種類の異なるアクション毎の重要度を示す重要度情報を記憶してもよい。またこの場合上記制御部は、上記重要度情報を基に、上記複数の第１の通知情報のうち、所定以上の重要度を有する通知情報を上記第２の通知情報として表示するように上記第２のページを制御してもよい。

[0021] これにより情報処理装置は、第２のページには第１のページに表示された通知情報のうち重要度の高い情報を表示させることで、通知情報の表示が第２のサービスを利用中のユーザの邪魔になるのを極力防ぎながら、通知すべき情報を通知し、第１のサービスへユーザを誘導することができる。

[0022] 上記記憶部は、上記第１のページへの複数の他のユーザのアクセス履歴を示すアクセス履歴情報を記憶してもよい。この場合上記制御部は、上記複数の他のユーザのアクションを通知する情報を上記第１の通知情報として表示するように上記第１のページを制御し、上記アクセス履歴情報を基に、上記複数の他のユーザのうち、上記第１のページへの所定値以上のアクセス頻度を有する他のユーザのアクションを通知する情報を上記第２の通知情報として表示するように上記第２のページを制御してもよい。

[0023] これにより情報処理装置は、第２のページには、他のユーザのうち、ユーザに関心の高いユーザによるアクションの通知情報のみを表示させることで、通知情報の表示が第２のサービスを利用中のユーザの邪魔になるのを極力防ぎながら、第１のサービスへユーザを誘導することができる。

[0024] 例えば、ＳＮＳにおいて他のユーザのページに表示される友達（またはフォロー）推薦領域を介して第１のページを何度も閲覧している他のユーザは、ユーザと友達になることまたはユーザをフォローすることに興味がある可能性が高い。したがって情報処理装置は、そのような他のユーザのアクショ

ンに関する通知情報のみを第2のページに表示させることで、ユーザを第1のサービスに誘導させ、上記他のユーザとの繋がりを促進させることができる。

[0025] 本発明の他の形態に係る情報処理方法は、インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶すること、上記記憶されたアクション情報を基に、上記第1のサービスにおける上記ユーザの第1のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させること、及び、上記第2のサービスにおける上記ユーザの第2のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する、上記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、上記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させることを含む。

[0026] 本発明のまた別の形態に係るプログラムは、情報処理装置に、記憶ステップと、第1の表示ステップと、第2の表示ステップとを実行させる。上記記憶ステップは、インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶する。上記第1の表示ステップは、上記記憶されたアクション情報を基に、上記第1のサービスにおける上記ユーザの第1のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させる。上記第2の表示ステップは、上記第2のサービスにおける上記ユーザの第2のページに、上記アクションの存在を上記ユーザへ通知する、上記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、上記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させる。

発明の効果

[0027] 以上のように、本発明によれば、インターネット上の複数のサービス間でユーザの回遊性を向上させることができる。

図面の簡単な説明

[0028] [図1]本発明の第1の実施形態に係るシステムのネットワーク構成を示した図

である。

[図2]本発明の第1の実施形態における通知サーバのハードウェア構成を示したブロック図である。

[図3]本発明の第1の実施形態における通知サーバに記憶されるデータベースの具体例を示した図である。

[図4]本発明の第1の実施形態における通知サーバの動作の流れを示したフローチャートである。

[図5]本発明の第1の実施形態におけるSNSのホームページの例を示した図である。

[図6]本発明の第1の実施形態におけるSNSのホームページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図7]本発明の第1の実施形態におけるブログのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図8]本発明の第1の実施形態において、SNSで通知情報が閲覧された場合の、ブログのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図9]本発明の第2の実施形態におけるブログのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図10]本発明の第3の実施形態におけるブログのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図11]本発明の第4の実施形態における通知サーバの動作の流れを示したフローチャートである。

[図12]本発明の第5の実施形態における通知サーバの動作の流れを示したフローチャートである。

[図13]本発明の第6の実施形態における通知サーバの動作の流れを示したフローチャートである。

[図14]本発明の第6の実施形態におけるブログのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[図15]本発明の第7の実施形態における通知サーバの動作の流れを示したフローチャートである。

発明を実施するための形態

[0029] 以下、本発明に係る実施形態を、図面を参照しながら説明する。

[0030] <第1の実施形態>

まず、本発明の第1の実施形態を説明する。

[0031] [システムのネットワーク構成]

図1は、本実施形態に係るシステムのネットワーク構成を示した図である。

[0032] 同図に示すように、このシステムは、インターネット50上の通知サーバ100、SNSサーバ200、ブログサーバ300及び複数のユーザ端末400を有する。

[0033] SNSサーバ200は、ユーザ端末400に対してSNSを提供する。具体的には、SNSサーバ200は、当該SNSにアカウントを有するユーザのユーザ端末400の要求に応じて、当該ユーザ端末400が有するブラウザを介して、当該SNSにおける当該ユーザのページを表示させる。またSNSサーバ200は、当該ユーザの投稿を受け付けて当該ページに表示させたり、当該ユーザに対する他のユーザからのアクションを受け付け、当該アクションの存在を通知する通知情報を当該ページに表示させたりする。

[0034] ブログサーバ300は、ユーザ端末400に対してブログサービスを提供する。具体的には、ブログサーバ300は、当該ブログサービスにアカウントを有するユーザのユーザ端末400の要求に応じて、上記ブラウザを介して、当該ブログサービスにおける当該ユーザのページを表示させる。当該ページでは、ユーザ端末400のユーザがブログを作成及び更新するためのユーザインタフェースや、他のユーザのブログを検索及び閲覧できる機能等が提供される。

[0035] 通知サーバ100は、上記SNSサーバ200及びブログサーバ300とインターネット50を介して接続されており、通知情報記憶部110及びA

API (Application Program Interface) 120を有する。通知サーバ100は、SNSサーバ200から、あるユーザ（例えばユーザA）に対する他のユーザ（例えばユーザB）からのアクションに関する情報（以下、アクション情報）を、API 120を介して受信する。そして通知サーバ100は、当該アクション情報を基に、上記アクションの存在を通知するための通知情報を作成して通知情報記憶部110に記憶する。そして通知サーバ100は、SNSサーバ200またはブログサーバ300からAPI 120を介して受信したリクエストに応じて、当該通知情報をSNSサーバ200及びブログサーバ300へ送信して、SNS及びブログにおけるユーザAのページに表示させる。

[0036] また通知サーバ100は、上記SNSサーバ200及びブログサーバ300から、上記API 120を介して、上記通知情報が閲覧されたことを示す既読情報を受信し、上記通知情報記憶部110に記憶する。当該既読情報は、通知情報がSNSサーバ200またはブログサーバ300へ送信される際に利用される。これらの処理の詳細については後述する。

[0037] ここでアクションとは、例えば、あるユーザが投稿したコンテンツに対して他のユーザが行う、コメントの投稿操作、当該コンテンツが好き（支持できる）といった意思を示すための操作（いいね！またはナイス！ボタンの押下）、SNS上であるユーザと新たに繋がるためのリクエスト送信操作（友達リクエスト）、あるユーザのコンテンツを自身のSNSページのタイムライン上で表示させる（フォローする）ための設定操作またはそのためのリクエスト送信操作等をいうが、これらに限られない。

[0038] ユーザ端末400は、例えばデスクトップPC (Personal Computer)、ノートブックPC、タブレットPC、スマートフォン、携帯電話機等、ブラウザを有しインターネット50に接続可能なあらゆる情報処理装置であり得る。同図では、ユーザ端末400Aとユーザ端末400Bの2台のみが示されているが、実際にはユーザ端末400の数は3台以上で有り得る。

[0039] [通知サーバのハードウェア構成]

図2は、上記通知サーバ100のハードウェア構成を示した図である。同図に示すように、通知サーバ100は、CPU (Central Processing Unit) 11、ROM (Read Only Memory) 12、RAM (Random Access Memory) 13、入出力インタフェース15、及び、これらを互いに接続するバス14を備える。

[0040] CPU 11は、必要に応じてRAM 13等に適宜アクセスし、各種演算処理を行いながら通知サーバ100の各ブロック全体を統括的に制御する。ROM 12は、CPU 11に実行させるOS、プログラムや各種パラメータなどのファームウェアが固定的に記憶されている不揮発性のメモリである。RAM 13は、CPU 11の作業用領域等として用いられ、OS、実行中の各種アプリケーション、処理中の各種データを一時的に保持する。

[0041] 入出力インタフェース15には、表示部16、操作受付部17、記憶部18、通信部19等が接続される。

[0042] 表示部16は、例えばLCD (Liquid Crystal Display)、OLED (Organic ElectroLuminescence Display)、CRT (Cathode Ray Tube) 等を用いた表示デバイスである。

[0043] 操作受付部17は、例えばマウス等のポインティングデバイス、キーボード、タッチパネル、その他の入力装置である。操作受付部17がタッチパネルである場合、そのタッチパネルは表示部16と一体となり得る。

[0044] 記憶部18は、例えばHDD (Hard Disk Drive) や、フラッシュメモリ (SSD ; Solid State Drive)、その他の固体メモリ等の不揮発性メモリである。当該記憶部18には、上記OSや各種アプリケーション、各種データが記憶される。特に本実施形態において、記憶部18は、上記通知情報記憶部110として機能し、後述する通知情報データベースを記憶している。また記憶部18には、上記通知情報の記憶処理及び送受信処理を制御するプログラムも記憶される。

[0045] 通信部19は、インターネット50に接続するためのNIC等であり、SNSサーバ200及びブログサーバ300との間の通信処理を担う。

[0046] [SNSサーバ及びブログサーバのハードウェア構成]

上記SNSサーバ200及びブログサーバ300のハードウェア構成も、上記通知サーバ100のハードウェア構成と同様であるため、詳細な説明を省略する。

[0047] [通知サーバのデータベース構成]

図3は、上記通知サーバ100に記憶される通知情報データベースの具体例を示した図である。

[0048] 同図に示すように、通知情報データベースには、アクションを行ったユーザのユーザ名、上記SNSにおける当該ユーザのページのURL、アクションの種別及び日時、アクション対象のコンテンツのURL、既読／未読の区別をそれぞれ示すデータが記憶されている。

[0049] ユーザ名、ユーザURL、アクション種別／日時、コンテンツURLの各情報は、通知サーバ100が通知情報を作成する際に利用される。既読／未読情報は、SNSサーバ200またはブログサーバ300から通知情報のリクエストを受信した際に、一方のサーバで既に閲覧された通知情報が他方のサーバで表示されないように、当該通知情報を削除するために利用される。

[0050] 当該データベース内の通知情報は、常に最新の所定数が記憶されるように、SNSサーバ200からアクション情報を受信する度に更新される。また既読／未読情報は、SNSサーバ200またはブログサーバ300から既読情報を受信する度に更新される。

[0051] [通知サーバの動作]

次に、以上のように構成された通知サーバ100の動作について説明する。

[0052] 図4は、本実施形態における通知サーバ100が、SNSサーバ200またはブログサーバ300に通知情報を表示させる際の動作の流れを示したフローチャートである。当該動作は、通知サーバ100の上記CPU11や通信部19等のハードウェアと、プログラム（ソフトウェア）との協働により実行される。以下の説明では、便宜上、CPU11を動作主体とする。

- [0053] 同図に示すように、CPU 11はまず、あるユーザに対する他のユーザのアクションを示すアクション情報をSNSサーバ200から受信したか否かを判断する（ステップ41）。
- [0054] アクション情報を受信した場合（Yes）、CPU 11は、当該受信したアクション情報を上記通知情報データベースに保存する（ステップ42）。
- [0055] 続いてCPU 11は、SNSサーバ200及びブログサーバ300の一方から、通知情報のリクエストを受信したか否かを判断する（ステップ43）。
- [0056] 通知情報のリクエストを受信した場合（Yes）、CPU 11は、通知情報記憶部110に記憶された通知情報を用いて、直近の所定数（例えば30個）の通知情報の一覧を作成する（ステップ44）。
- [0057] 続いてCPU 11は、通知情報のリクエスト元ではない、他方のサーバから、通知情報の既読情報を受信済みか否かを判断する（ステップ45）。
- [0058] 既読情報を受信済みの場合（Yes）、上記通知情報の一覧から、既読情報に対応する通知情報を削除する（ステップ46）。
- [0059] そしてCPU 11は、上記既読情報に対応する通知情報を削除した一覧を、上記リクエスト元のサーバへ送信して表示させる（ステップ47）。
- [0060] 既読情報を受信していない場合（ステップ45のNo）には、作成した一覧をリクエスト元のサーバへ送信して表示させる（ステップ47）。
- [0061] 図5は、本実施形態におけるSNSサーバ200によってユーザ端末400の表示部に表示されるSNSのホームページの例を示した図である。
- [0062] 同図に示すように、SNSのホームページ上では、当該SNSにアカウントを有するユーザ（例えばユーザ名：TARO）のタイムラインが表示される。当該タイムラインには、当該ユーザが投稿したコンテンツ（記事や写真等）や、当該ユーザのアクティビティ（コメントやシェア等）が、最新のものから時系列順に表示される。
- [0063] また、当該タイムライン上では、上記ユーザのコンテンツやアクティビティに対して他のユーザが行ったアクションを示す情報も表示される。例えば

、ユーザ（T A R O）の最新のつぶやきに対しては、他のユーザ（aaaaaとddddd）が”ナイス”し、その１つ前のつぶやきに対しては、他のユーザ（cccccc）が”ナイス”したことを示すメッセージ５２がそれぞれ表示される。また、上記最新のつぶやきに対して他のユーザ（aaaaa、bbbbbb、cccccc）がそれぞれ投稿したコメント５３も表示される。

[0064] さらに、上記ホームページ上には、上記アクションに関する通知情報の一覧へのリンク５４も表示される。図６は、ユーザが当該リンク５４を押下した場合の通知情報一覧画面の表示例を示した図である。

[0065] 同図に示すように、通知情報一覧６１では、他のユーザが行ったアクションを通知する複数の通知情報６２が一覧表示される。通知情報６２の数は例えば３０件であるが、これに限られない。

[0066] 各通知情報６２は、アクションの主体であるユーザ名、アクションの対象となったコンテンツ（投稿、シェア、コメント、写真等）、アクションの種類に関する情報、及びアクションの日時に関する情報を含む。アクション主体のユーザ名を示すテキストにはその詳細に関するリンク６３が設けられ、当該リンク６３がクリック（またはタッチ）されると、上記一覧画面が、SNSにおける当該ユーザ名に対応するユーザのページに切り替わる。またアクション対象となったコンテンツを示すテキストにもその詳細に関するリンク６４が設けられており、当該リンクがクリック（またはタッチ）されると、上記一覧画面が、上記図５で示したタイムライン上の、上記コンテンツが掲載された位置に切り替わる。

[0067] 図７は、ブログサービスのトップページにおける通知情報一覧の表示例を示した図である。

[0068] 同図に示すように、ブログサービスのトップページでは、ブログ作成に関する各種情報に加えて、SNSからの通知情報一覧７１が表示される。同図は、ブログサーバ３００から通知サーバ１００に通知情報のリクエストがあった時点でSNSからの既読情報が受信されていない場合の表示例を示している。この場合に表示される通知情報７２の内容は、上記図６で示したSN

Sにおける通知情報と同様である。すなわち、通知情報72は、アクション主体のユーザ名、アクション対象のコンテンツ、アクション種別及びアクション日時に関する情報を含み、アクション主体についてはリンク73が設けられ、アクション対象コンテンツについてはリンク74が設けられる。

[0069] 一方、ブログサーバ300から通知サーバ100に通知情報のリクエストがあった時点で、SNSからの既読情報が受信されている場合には、その既読情報に対応する通知情報は、通知サーバ100の送信前に一覧から削除される。図8は、この場合におけるブログサービスのトップページに表示される通知情報一覧の例を示した図である。

[0070] 同図に示すように、例えば、図6で示した通知情報のうち、先頭の2つの通知情報（他のユーザ（aaaaa及びddddd）からの”ナイス”に関する通知情報）に設定されたアクション主体に関するリンク63またはアクション対象コンテンツに関するリンク64がクリックされると、その事実が既読情報としてSNSサーバ200から通知サーバ100へ送信される。

[0071] その場合、通知サーバ100は、ブログサーバ300から通知情報のリクエストを受信すると、上記2つの通知情報を、通知サーバ100が作成した一覧上から削除した上でブログサーバ300へ送信する。したがってこの場合には、図7と図8とを比較すると分かるとおり、ブログサービスの通知情報一覧71において、上記他のユーザ（aaaaa及びddddd）の”ナイス”に関する通知情報は表示されない。

[0072] 図示しないが、SNSサーバ200から通知サーバ100へ通知情報のリクエストがあった時点で、ブログサーバ300から既読情報が受信されている場合の処理も同様となる。

[0073] このように、本実施形態において通知サーバ100は、SNSにおける通知情報をブログサービスにおいても表示させる際に、一方のサービスにおいて既読とされた（そこから詳細情報へのリンク先へアクセスされた）通知情報を、他方のサービスでは表示させないように制御することができる。これ

により通知サーバ１００は、ＳＮＳ及びブログサービス間でのユーザの回遊性を向上させることができると共に、ユーザが同一の情報を双方のサービス上で閲覧することで煩わしさを感じるのを防ぐことができる。

[0074] ＜第２の実施形態＞

次に、本発明の第２の実施形態を説明する。本実施形態及びこれ以降の実施形態においては、上記第１の実施形態と同様の構成及び機能を有する点については説明を省略し、第１実施形態と異なる点について説明する。

[0075] 上述の第１の実施形態では、通知サーバ１００は、一方のサービスで既読とされた通知情報を他方のサービスで表示させないことで、両サービスにおける通知情報の表示態様が同一とならないよう制御していた。しかし本実施形態では、通知サーバ１００は、両サービス間で表示される通知情報の詳細度を異ならせることで両サービスにおける通知情報の表示態様を異ならせている。

[0076] 図９は、本実施形態のブログサービスのトップページにおける通知情報の表示例を示した図である。

[0077] 本実施形態のＳＮＳのホームページには、上記第１の実施形態と同様の通知情報一覧が表示される。一方、本実施形態のブログサービスのトップページには、図９に示すように、通知情報一覧７１として、他のユーザによるアクションを簡略化して通知するテキスト情報９１と、そのアクションの詳細情報へのリンク９２とが表示される。

[0078] テキスト情報９１には、例えば、単にユーザのコンテンツに対して特定のアクションがあった旨の情報が含まれ、アクションの主体や日時は表示されない。また当該テキスト自体にはアクション対象のコンテンツに関するリンク等は含まれず、その代わりに、詳細情報へのリンク９２が用意されている。

[0079] 詳細情報へのリンク９２がクリック（またはタッチ）されると、上記第１の実施形態の図７で示したのと同様の通知情報が表示される。

[0080] この場合通知サーバ１００は、ＳＮＳサーバ２００から通知情報のリクエ

ストがあった際には、上記図 7 で示したような通知情報一覧を作成して送信する。一方、ブログサーバ 300 から通知情報のリクエストがあった際には、SNSサーバ 200 用の通知情報を簡略化した図 9 に示すような通知情報を作成して送信し、上記詳細情報のリンク 92 についてリクエストがあった際には、上記図 7 で示したような通知情報一覧を送信する。

[0081] このように本実施形態では、通知サーバ 100 は、SNS とブログサービスにおいて表示される通知情報の詳細度を異ならせることで、ユーザをブログサービスから SNS へ誘導することができるとともに、通知情報がブログサービス上で作業中のユーザの邪魔になるのを極力回避することができる。

[0082] <第 3 の実施形態>

次に、本発明の第 3 の実施形態を説明する。

[0083] 本実施形態では、通知サーバ 100 は、SNS とブログサービスにおいて表示される通知情報一覧の表示順を異ならせることとしている。

[0084] 図 10 は、本実施形態のブログサービスのトップページにおける通知情報の表示例を示した図である。

[0085] 本実施形態の SNS のホームページには、上記第 1 及び第 2 の実施形態と同様の通知情報一覧が表示される。一方、本実施形態のブログサービスのトップページには、図 10 に示すように、SNS のホームページに表示される通知情報一覧とはその表示順が逆とされた通知情報一覧 71 が表示される。

[0086] すなわち、SNS のホームページにおける通知情報一覧 61 は、直近の所定数（例えば 30 件）の通知情報のうち、最新の通知情報ほど上部に表示されるように構成されるが、それとは逆に、ブログのトップページにおける通知情報一覧 71 は、最新の通知情報ほど下部に表示されるように構成される。

[0087] この場合通知サーバ 100 は、SNSサーバ 200 から通知情報のリクエストがあった際には、上記図 7 で示したような通知情報一覧を作成して送信する。一方、ブログサーバ 300 から通知情報のリクエストがあった際には、SNSサーバ 200 用の通知情報一覧の表示順を逆にした図 10 に示すよ

うな通知情報一覧を作成して送信する。

[0088] このように本実施形態では、通知サーバ１００は、ＳＮＳとブログサービスにおいて表示される通知情報の表示順序を異ならせることで、双方のページで、同じアクションに関する通知情報がユーザに閲覧されてしまうのを極力防ぐことができる。これは、通常、ユーザは、上部に表示される通知情報ほど先に閲覧すると考えられるためである。

[0089] ＜第４の実施形態＞

次に、本発明の第４の実施形態を説明する。

[0090] 本実施形態では、通知サーバ１００は、ＳＮＳとブログサービスにおいて表示される通知情報の表示タイミングを異ならせることとしている。

[0091] 図１１は、本実施形態における通知サーバ１００の動作の流れを示したフローチャートである。同図は、ブログサービスにおける通知情報の表示処理を説明するものであり、ＳＮＳにおける通知情報の表示処理は、上述の各実施形態と同様である。

[0092] 同図に示すように、通知サーバ１００のＣＰＵ１１は、ユーザ端末４００からブログサーバ３００（ブログサービスのトップページ）へアクセスがあったか否かを判断する（ステップ１１１）。ユーザ端末４００からブログサーバ３００へアクセスがあった際には、ブログサーバ３００は通知情報リクエストのために通知サーバ１００のＡＰＩ１２０へアクセスするため、通知サーバ１００は当該ＡＰＩ１２０へのアクセスの有無によりブログサーバ３００へのアクセスの有無を判断することができる。またこの際、アクセス元のユーザ端末４００を特定するための情報（例えばＩＰアドレス等）も通知サーバ１００に送信される。

[0093] ブログサービスへアクセスがあったと判断した場合（Ｙｅｓ）、ＣＰＵ１１は、その時点からタイマーを起動することで、ユーザ端末４００のユーザによるブログサービスでの滞在時間の計測を開始する（ステップ１１２）。

[0094] 続いてＣＰＵ１１は、上記滞在時間が、上記アクセス元のユーザ端末４００の、ブログサービスにおける平均滞在時間の所定割合を経過したか否かを

判断する（ステップ113）。当該平均滞在時間は、所定期間（例えば1週間、1ヶ月等）における上記ユーザ端末400のブログサービスへのアクセス履歴の解析により、通知サーバ100によって予め算出され、記憶部18に保存される。そのため、通知サーバ100は、ブログサーバ300から上記アクセス履歴情報を定期的に受信する。しかし、ブログサーバ300が所定期間内の平均滞在時間を算出し、それを通知サーバ100へ通知しても構わない。また上記所定割合とは、例えば9割等である。

[0095] 滞在時間が平均滞在時間の所定割合を経過したと判断した場合（Yes）、CPU11は、上記SNSサーバ200へ送信されるのと同様の通知情報一覧を作成し、それをブログサーバ300へ送信して表示させる（ステップ114）。したがって例えば平均滞在時間が10分の場合、ブログサーバ300へのアクセスから9分が経過した場合に通知情報一覧が表示されることになる。

[0096] このように本実施形態では、通知サーバ100は、ユーザがブログサービスにアクセスしてから離脱しそうなタイミングで通知情報一覧を表示させることで、ユーザのブログサービスにおける滞在時間を減らせる（閲覧動作を邪魔する）ことなく、ユーザをSNSにスムーズに誘導することができる。

[0097] <第5の実施形態>

次に、本発明の第5の実施形態を説明する。

[0098] 本実施形態では、通知サーバ100は、ユーザからSNSとブログサービスとが同時にアクセスされている場合に、SNSとブログサービスとで表示される通知情報の数を異ならせることとしている。

[0099] 図12は、本実施形態における通知サーバ100の動作の流れを示したフローチャートである。

[0100] 同図に示すように、通知サーバ100のCPU11はまず、ユーザ端末400からSNSサーバ200にアクセスがあったか否かを判断する（ステップ121）。

- [0101] SNSサーバ200にアクセスがあったと判断した場合、CPU11は、上述の各実施形態でSNSにおいて表示されたのと同様の通知情報一覧を作成してSNSサーバ200へ送信する（ステップ122）。
- [0102] 続いて通知サーバ100は、ユーザ端末400からSNSサーバ200へのアクセス継続中に、ユーザ端末400からブログサーバ300にもアクセスがあったか否かを判断する（ステップ123）。
- [0103] ブログサーバ300にもアクセスがあった場合（Yes）、通知サーバ100は、上記SNSサーバ200へ送信した通知情報一覧から、その先頭の所定数（例えば3件、5件、10件等）を削除した一覧を作成し、ブログサーバ300へ送信する（ステップ124）。
- [0104] このように本実施形態では、通知サーバ100は、SNSサーバ200とブログサーバ300とが同時にアクセスされた場合には、SNSにおいて表示された所定数の通知情報はユーザによって既読とみなし、ブログサービスではそれら所定数の情報を表示させないことで、ユーザが同じ情報を何度も閲覧してしまうことを極力防ぐことができる。
- [0105] <第6の実施形態>
- 次に、本発明の第6の実施形態を説明する。
- [0106] 本実施形態では、通知サーバ100は、SNSとブログサービスとで、表示される通知情報の種別を異ならせることとしている。
- [0107] 図13は、本実施形態における通知サーバ100の動作の流れを示したフローチャートである。また図14は、本実施形態のブログサービスのトップページにおける通知情報の表示例を示した図である。
- [0108] 図13に示すように、通知サーバ100のCPU11はまず、ユーザ端末400からSNSサーバ200にアクセスがあったか否かを判断する（ステップ131）。
- [0109] SNSサーバ200にアクセスがあったと判断した場合、CPU11は、上述の各実施形態でSNSにおいて表示されたのと同様の通知情報一覧を作成してSNSサーバ200へ送信する（ステップ132）。

- [0110] 続いてCPU 11は、ユーザ端末400からブログサーバ300にアクセスがあったか否かを判断する（ステップ133）。
- [0111] ブログサーバ300にアクセスがあったと判断した場合（Yes）、CPU 11は、上記SNSサーバ200へ送信した通知情報一覧から、所定以上の重要度を有するアクションに関する通知情報のみを抽出する（ステップ134）。当該重要度は、予め通知サーバ100によって設定されていてもよいし、ユーザによって設定されてもよい。当該重要度に関する情報は、通知サーバ100の記憶部18に記憶されている。本実施形態では、例えば”ナイス”、”コメント”、”フォロー”等のアクションのうち、新たなユーザの繋がりを生み出す”フォロー”が重要なアクションとみなされ、それに対して高い重要度が設定されているものとする。
- [0112] そして通知サーバ100は、上記抽出した重要度が高いアクションのみに関する通知情報の一覧を作成し、ブログサーバ300へ送信する（ステップ135）。
- [0113] 図14に示すように、本実施形態では、SNSで表示される通知情報のうち、他のユーザからのフォローに関する通知情報72のみがリストアップされて表示されている。
- [0114] このように本実施形態では、通知サーバ100は、ブログサービスにおいてはSNSにおいて表示された通知情報のうち重要度の高い情報のみを表示させることで、通知情報の表示がブログサービスで作業中にユーザの邪魔になるのを極力防ぎながら、通知すべき情報を通知し、SNSへユーザを誘導することができる。
- [0115] <第7の実施形態>
- 次に、本発明の第7の実施形態を説明する。
- [0116] 本実施形態では、通知サーバ100は、SNSとブログサービスとで、表示される通知情報の元になるアクションの主体を異ならせることとしている。
- [0117] 図15は、本実施形態における通知サーバ100の動作の流れを示したフ

ローチャートである。

[0118] 同図に示すように、通知サーバ１００のＣＰＵ１１はまず、ユーザ端末４００からＳＮＳサーバ２００にアクセスがあったか否かを判断する（ステップ１５１）。

[0119] ＳＮＳサーバ２００にアクセスがあったと判断した場合、ＣＰＵ１１は、上述の各実施形態でＳＮＳにおいて表示されたのと同様の通知情報一覧を作成してＳＮＳサーバ２００へ送信する（ステップ１５２）。

[0120] 続いて通知サーバ１００は、ユーザ端末４００からブログサーバ３００にアクセスがあったか否かを判断する（ステップ１５３）。

[0121] ブログサーバ３００にアクセスがあったと判断した場合（Ｙｅｓ）、ＣＰＵ１１は、上記ＳＮＳサーバ２００へ送信した通知情報一覧から、ＳＮＳにおけるユーザのページに対して所定以上のアクセス頻度を有する他のユーザを抽出する（ステップ１５４）。当該アクセス頻度は、ＳＮＳサーバ２００から例えば定期的に通知サーバ１００へ送信されるアクセス履歴を元に、通知サーバ１００によってユーザ毎に算出される。しかし、当該アクセス頻度は、ＳＮＳサーバ２００によって算出されて通知サーバ１００へ定期的送信されてもよい。ここで所定以上のアクセス頻度とは、例えば数日に１アクセス以上等であるが、これに限られない。

[0122] 続いてＣＰＵ１１は、上記通知情報一覧から、上記抽出したユーザのアクションに関する通知情報のみを抽出する（ステップ１５５）。

[0123] そしてＣＰＵ１１は、抽出した通知情報の一覧を作成してブログサーバ３００へ送信する（ステップ１５６）。

[0124] このように本実施形態では、通知サーバ１００は、ブログサービスにおいては、他のユーザのうち、アクション対象のユーザに関心の高いユーザによるアクションの通知情報のみを表示させることで、通知情報の表示がブログサービスで作業中のユーザの邪魔になるのを極力防ぎながら、ＳＮＳへユーザを誘導することができる。

[0125] 例えば、ＳＮＳにおいて他のユーザのページに表示される友達（またはフ

フォロー）推薦領域を介して、アクション対象ユーザのページを何度も閲覧している他のユーザは、ユーザと友達になることまたはユーザをフォローすることに興味がある可能性が高い。したがって通知サーバ１００は、そのような他のユーザのアクションに関する通知情報のみをブログサービスで表示させることで、ユーザをＳＮＳへ誘導させ、上記他のユーザとの繋がりを促進させることができる。

[0126] 〔変形例〕

本発明は上述の実施形態にのみ限定されるものではなく、本開示の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更され得る。

[0127] 上述の各実施形態では、ＳＮＳにおける通知情報がブログサービスのページにも表示される例が示されたが、本発明はこの両サービス間の処理に限られない。例えば、異なるＳＮＳ間または異なるブログサービス間でのアクション情報に関する通知情報が表示されてもよい。

[0128] また本発明は、ＳＮＳ及びブログ以外のサービス間における通知情報の表示処理にも適用可能である。その他のサービスとしては、例えばオークションサービス、Ｑ＆Ａサービス、口コミサイトサービス（レビューの投稿が可能なサービス）等、あらゆる種類のサービスが挙げられる。

[0129] またその場合、通知情報の元になるアクションも、上述の各実施形態で説明した”ナイス”、”コメント”、”フォロー”等に限られない。例えばオークションサイト、ＥＣサービスサイト、Ｑ＆Ａサービス等において投稿されたコメント、レビュー、評価（例えば星の数による）等もアクションに含まれる。

[0130] また上述の各実施形態では、ＳＮＳにおける他のユーザのアクションに関する通知情報がブログサービスのページにおいて表示される例が示された。しかし、本発明は、逆にブログサービスにおける他のユーザのアクション（例えばブログの投稿に対するコメントやシェア等）に関する通知情報がＳＮＳのページにおいて表示される場合にも適用可能である。

[0131] 上述の第１～第７の各実施形態は、矛盾が生じない限り如何様にも組み合

わされて実行され得る。

符号の説明

- [0132] 1 1 … C P U
 1 3 … R A M
 1 8 … 記憶部
 1 9 … 通信部
 5 0 … インターネット
 5 4、6 3、6 4、7 3、7 4、9 2 … リンク
 6 1 … 通知情報一覧
 6 2 … 通知情報
 7 1 … 通知情報一覧
 7 2 … 通知情報
 1 0 0 … 通知サーバ
 1 1 0 … 通知情報記憶部
 1 2 0 … A P I
 2 0 0 … S N S サーバ
 3 0 0 … ブログサーバ
 4 0 0 (4 0 0 A, 4 0 0 B) … ユーザ端末

請求の範囲

- [請求項1] インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶する記憶部と、
- 前記記憶されたアクション情報を基に、前記第1のサービスにおける前記ユーザの第1のページに、前記アクションの存在を前記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させ、前記第2のサービスにおける前記ユーザの第2のページに、前記アクションの存在を前記ユーザへ通知する、前記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、前記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させる制御部と
- を具備する情報処理装置。
- [請求項2] 請求項1に記載の情報処理装置であって、
- 前記第1の通知情報は前記アクションに関する詳細情報へのリンクを有し、
- 前記制御部は、前記第1のページで前記第1の通知情報から前記詳細情報へのアクセスが検出された場合に、当該第1の通知情報に対応する前記第2の通知情報が表示されないように前記第2のページを制御する
- 情報処理装置。
- [請求項3] 請求項1に記載の情報処理装置であって、
- 前記制御部は、前記第1の通知情報に第1の詳細度を有する第1の詳細情報を含ませ、前記第2の通知情報に、前記第1の詳細度よりも小さい第2の詳細度を有し、前記第1の詳細情報へのリンクを含む第2の詳細情報を含ませる
- 情報処理装置。
- [請求項4] 請求項1に記載の情報処理装置であって、
- 前記制御部は、所定数のアクションの存在を示す複数の第1の通知

情報を第 1 の順序で表示するように前記第 1 のページを制御し、前記所定数のアクションの存在を示す複数の第 2 の通知情報を前記第 1 の順序とは異なる第 2 の順序で表示するように前記第 2 のページを制御する

情報処理装置。

[請求項5]

請求項 1 に記載の情報処理装置であって、

前記記憶部は、前記ユーザが前記第 2 のページにアクセスして滞在する時間を所定アクセス分平均した平均滞在時間情報を記憶し、

前記制御部は、前記平均滞在時間情報を基に、前記第 2 の通知情報を、前記ユーザが前記第 2 のページにアクセスしてから前記平均滞在時間の所定割合の時間が経過したときに表示させるように前記第 2 のページを制御する

情報処理装置。

[請求項6]

請求項 1 に記載の情報処理装置であって、

前記制御部は、前記第 1 のページがアクセスされている間に前記第 2 のページがアクセスされた場合、前記第 1 のページで表示された複数の第 1 の通知情報のうち所定数の第 1 の通知情報に対応する所定数の第 2 の通知情報が、前記第 2 のページで表示されないように前記第 2 のページを制御する

情報処理装置。

[請求項7]

請求項 1 に記載の情報処理装置であって、

前記第 1 の通知情報及び前記第 2 の通知情報は、複数の異なるアクション毎に、種類の異なる複数の通知情報を有し、

前記記憶部は、前記種類の異なるアクション毎の重要度を示す重要度情報を記憶し、

前記制御部は、前記重要度情報を基に、前記複数の第 1 の通知情報のうち、所定以上の重要度を有する通知情報を前記第 2 の通知情報として表示するように前記第 2 のページを制御する

情報処理装置。

[請求項8]

請求項1に記載の情報処理装置であって、

前記記憶部は、前記第1のページへの複数の他のユーザのアクセス履歴を示すアクセス履歴情報を記憶し、

前記制御部は、前記複数の他のユーザのアクションを通知する情報を前記第1の通知情報として表示するように前記第1のページを制御し、前記アクセス履歴情報を基に、前記複数の他のユーザのうち、前記第1のページへの所定値以上のアクセス頻度を有する他のユーザのアクションを通知する情報を前記第2の通知情報として表示するように前記第2のページを制御する

情報処理装置。

[請求項9]

インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶し、

前記記憶されたアクション情報を基に、前記第1のサービスにおける前記ユーザの第1のページに、前記アクションの存在を前記ユーザへ通知する第1の通知情報を第1の表示態様で表示させ、

前記第2のサービスにおける前記ユーザの第2のページに、前記アクションの存在を前記ユーザへ通知する、前記第1のサービスへのリンクを含む第2の通知情報を、前記第1の表示態様とは異なる第2の表示態様で表示させる

情報処理方法。

[請求項10]

情報処理装置に、

インターネット上の第1のサービス及び第2のサービスの双方にアカウントを有するユーザに対する他のユーザからのアクションを示すアクション情報を記憶するステップと、

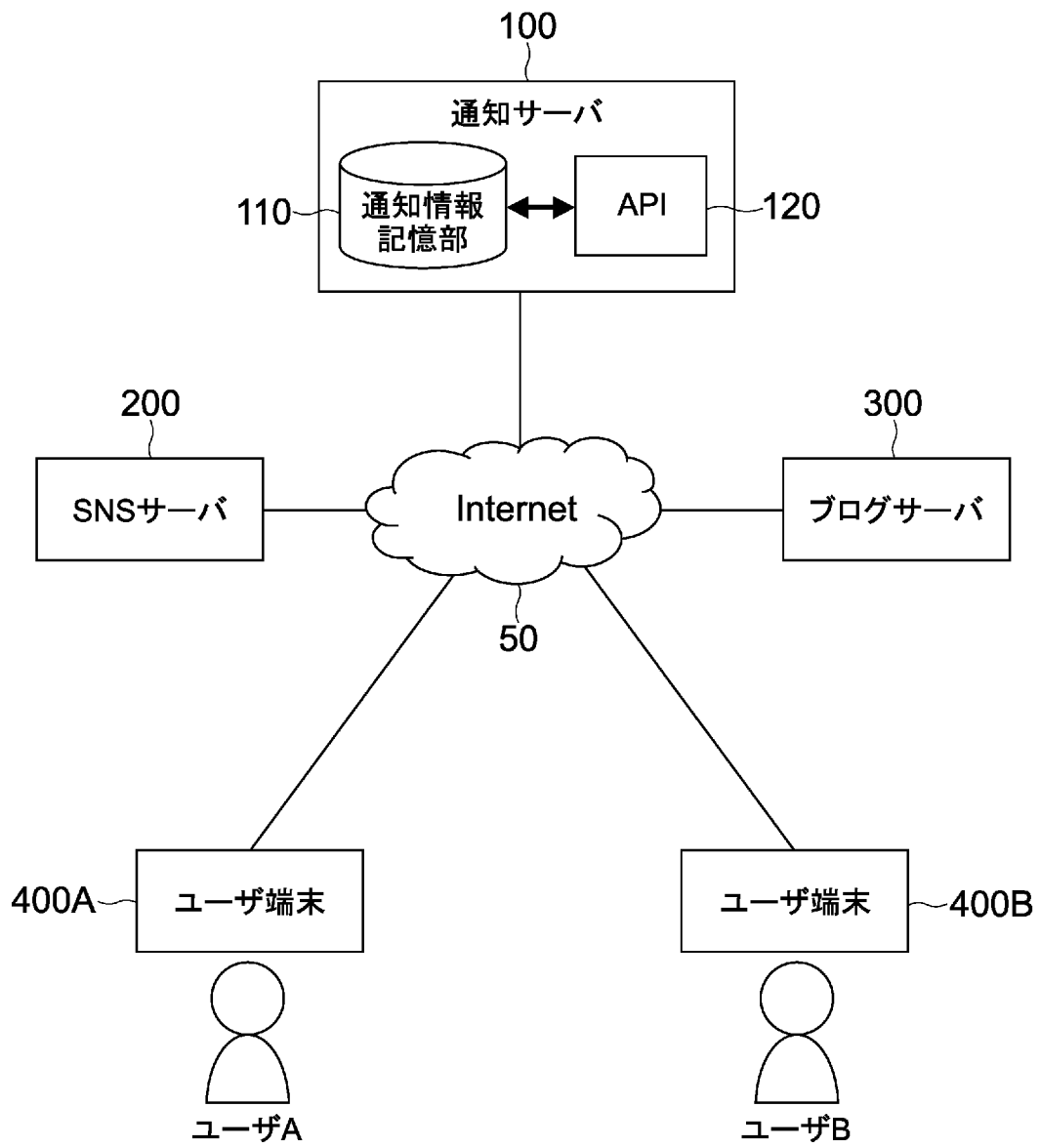
前記記憶されたアクション情報を基に、前記第1のサービスにおける前記ユーザの第1のページに、前記アクションの存在を前記ユーザ

へ通知する第 1 の通知情報を第 1 の表示態様で表示させるステップと
、

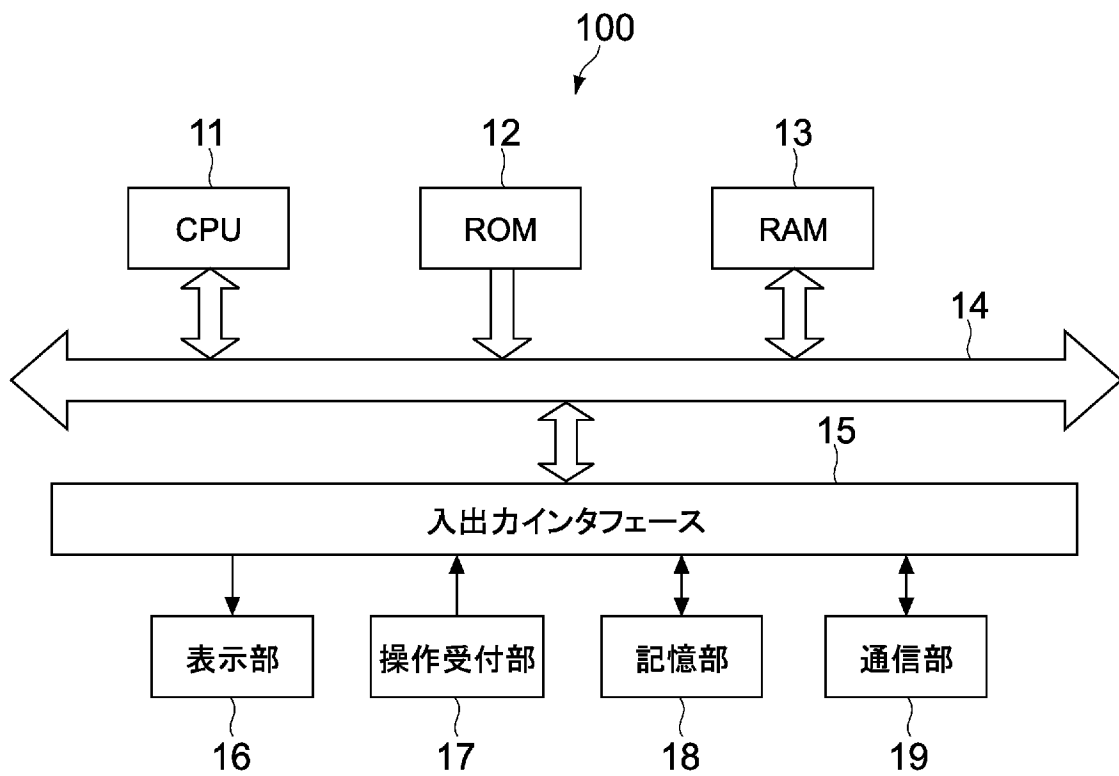
前記第 2 のサービスにおける前記ユーザの第 2 のページに、前記アクションの存在を前記ユーザへ通知する、前記第 1 のサービスへのリンクを含む第 2 の通知情報を、前記第 1 の表示態様とは異なる第 2 の表示態様で表示させるステップと

を実行させるプログラム。

[図1]



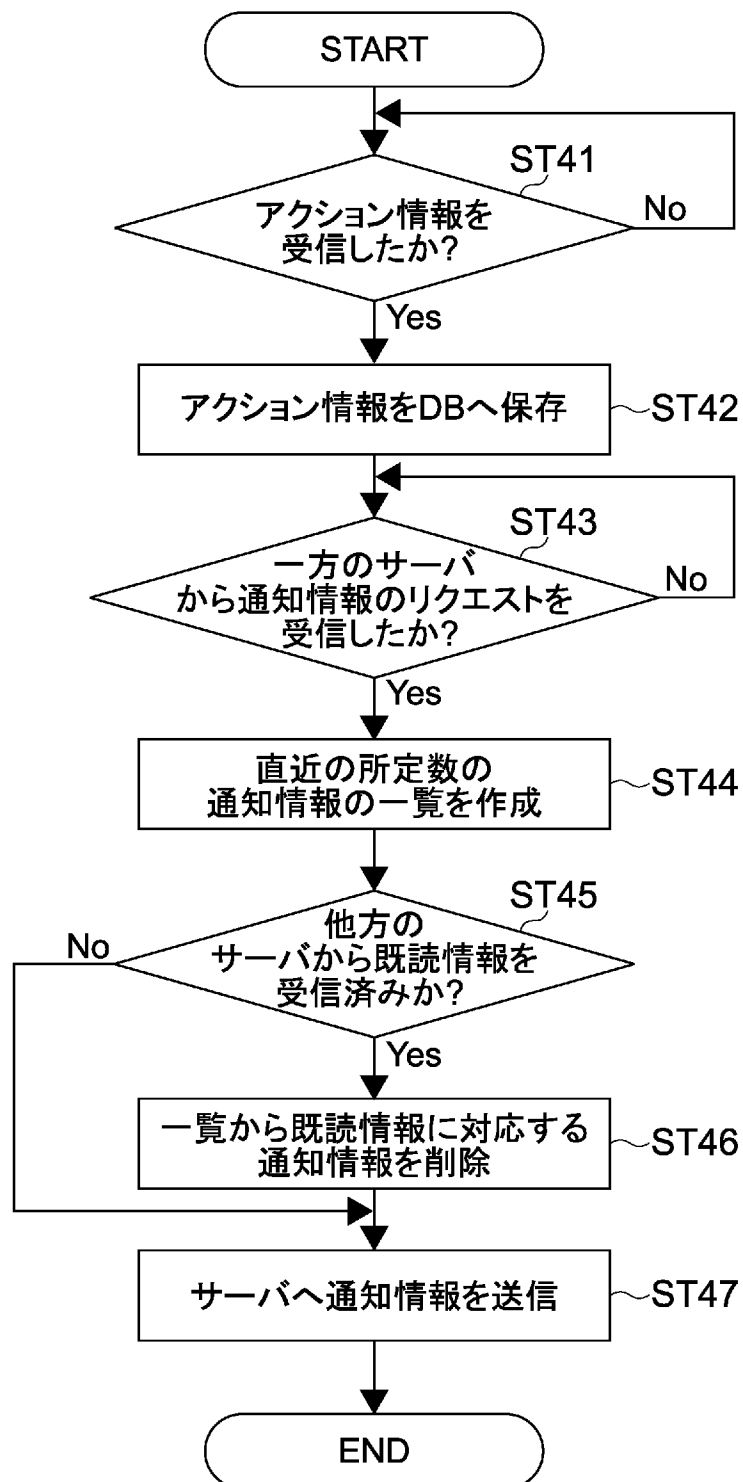
[図2]



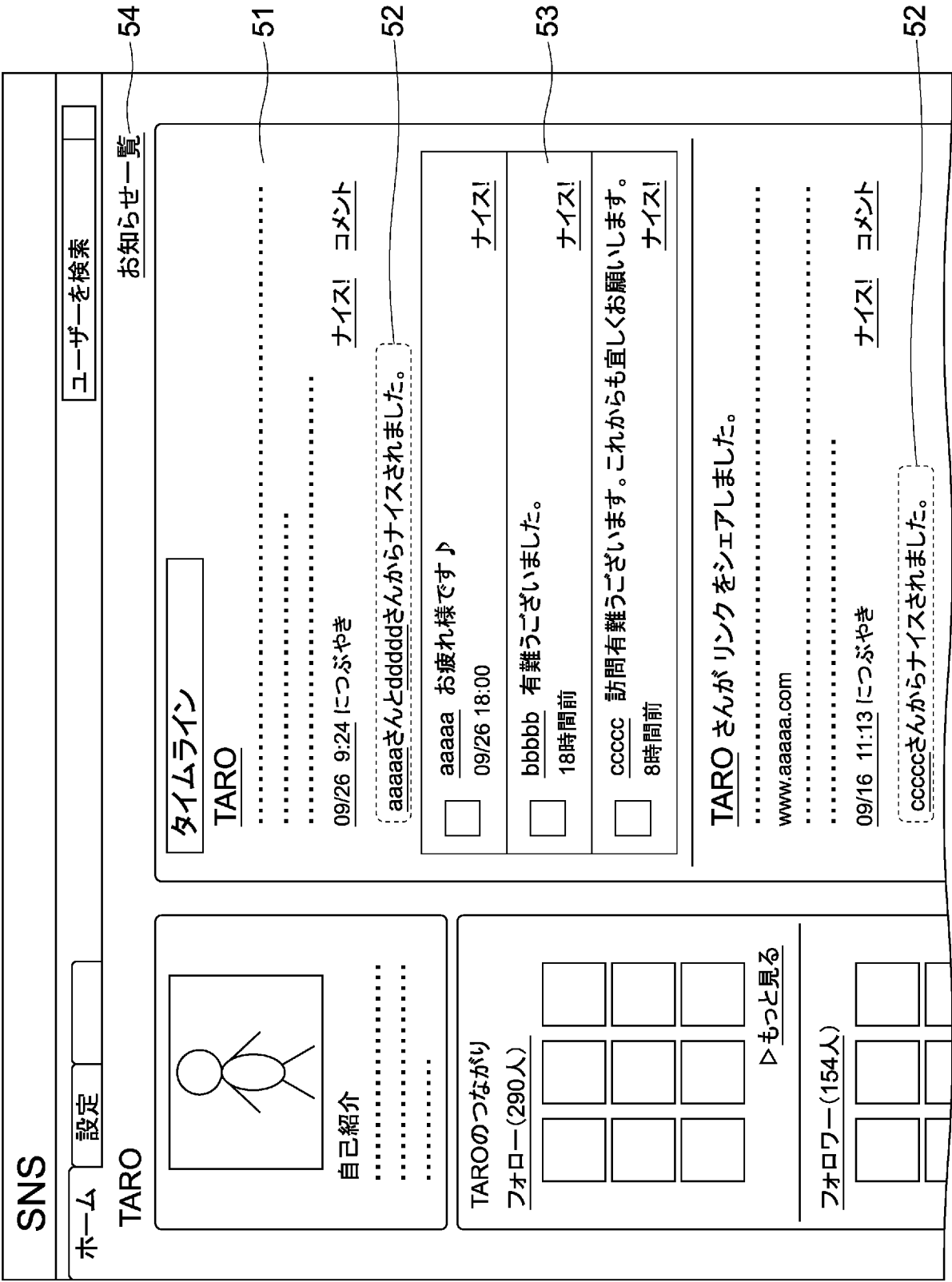
[図3]

ユーザ名	ユーザURL	種別	日時	コンテンツURL	既読/未読
aaaaa	www.sns.com/aaa	ナイス	09/26 14:49	www.sns.com/xxx.001	既読
dddddd	www.sns.com/ddd	ナイス	09/26 14:47	www.sns.com/xxx.001	既読
ccccc	www.sns.com/ccc	コメント	09/26 11:00	www.sns.com/xxx.001	未読
dddddd	www.sns.com/ddd	コメント	09/26 10:12	www.sns.com/xxx.001	未読
aaaaa	www.sns.com/eee	ナイス	09/26 10:10	www.sns.com/xxx.002	未読
eeeeee	www.sns.com/fff	コメント	09/16 15:16	www.sns.com/xxx.003	未読
fffff	www.sns.com/ggg	フォロー	09/15 3:30	-	未読
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

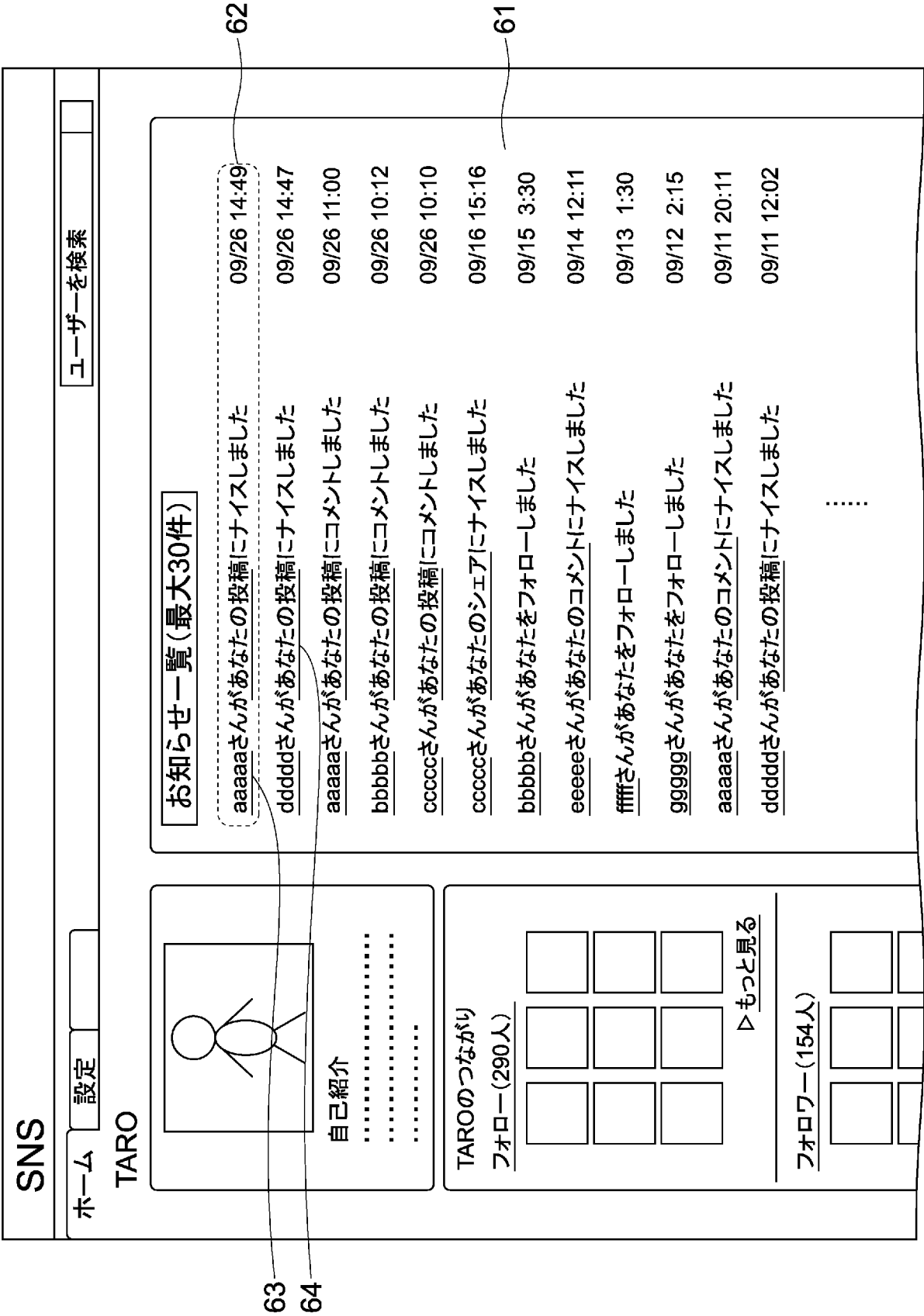
[図4]



[図5]



[図6]



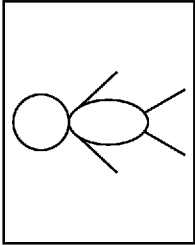
[図7]

トップ

ログアウト

自分のブログを見る

TAROさん



日記を書く

写真館にアップロード

レビューを書く

Myメニュー

ブログの管理

⑥ 日記の編集・削除

⑥ 日記の基本設定

⑥ コメントの削除

⑥ テーマの作成

⑥ テーマの削除

⑥ カテゴリの追加・編集

⑥ ブログの基本情報

インフォメーション

○

○

○

○

○

SNSからのお知らせ (最大30件)

aaaaさんがあなたの投稿にナイスしました

09/26 14:49

ddddさんがあなたの投稿にナイスしました

09/26 14:47

aaaaさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 11:00

bbbbさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

ccccさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

ccccさんがあなたのシェアにナイスしました

09/16 15:16

bbbbさんがあなたをフォローしました

09/15 3:30

73

74

72

71

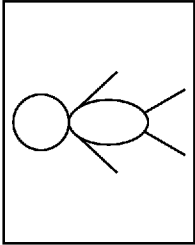
[図8]

トップ

ログアウト

自分のブログを見る

TAROさん



日記を書く

写真館にアップロード

レビューを書く

Myメニュー

ブログの管理

⑥ 日記の編集・削除

⑥ 日記の基本設定

⑥ コメントの削除

⑥ テーマの作成

⑥ テーマの削除

⑥ カテゴリの追加・編集

⑥ ブログの基本情報

インフォメーション

○

○

○

○

○

SNSからのお知らせ (最大30件)

aaaaさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 11:00

bbbbさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

ccccさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

ccccさんがあなたのシェアにナイスしました

09/16 15:16

bbbbさんがあなたをフォローしました

09/15 3:30

eeeeさんがあなたのコメントにナイスしました

09/14 12:11

ffffさんがあなたをフォローしました

09/13 1:30

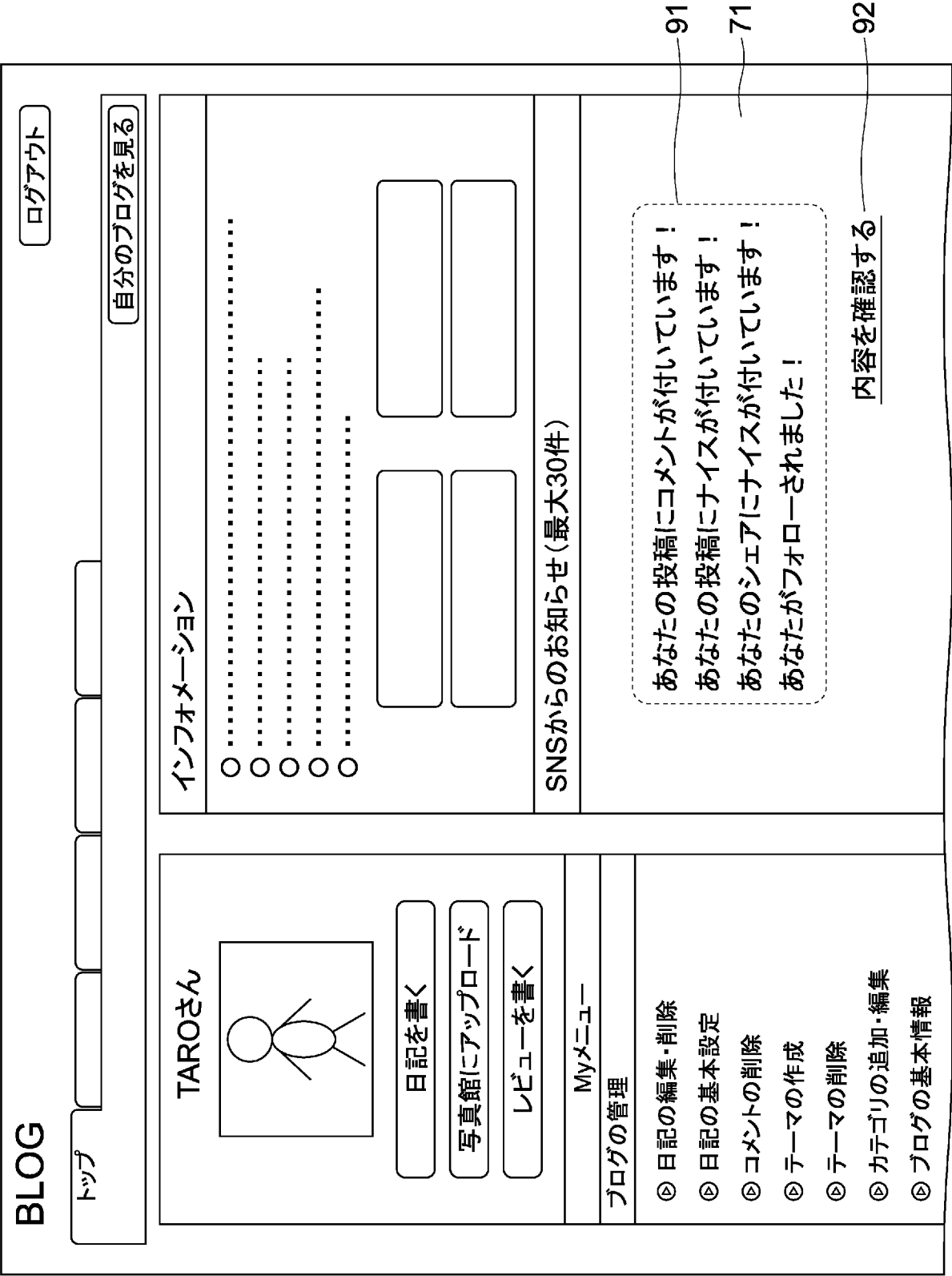
73

74

72

71

[図9]



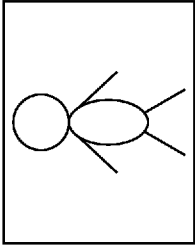
[図10]

トップ

ログアウト

自分のブログを見る

TAROさん



日記を書く

写真館にアップロード

レビューを書く

Myメニュー

ブログの管理

⑥ 日記の編集・削除

⑥ 日記の基本設定

⑥ コメントの削除

⑥ テーマの作成

⑥ テーマの削除

⑥ カテゴリの追加・編集

⑥ ブログの基本情報

インフォメーション

○

○

○

○

○

SNSからのお知らせ (最大30件)

bbbbbbさんがあなたをフォローしました

09/15 3:30

ccccccさんがあなたのシェアにナイスしました

09/16 15:16

ccccccさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

bbbbbbさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 10:12

aaaaaaさんがあなたの投稿にコメントしました

09/26 11:00

ddddddさんがあなたの投稿にナイスしました

09/26 14:47

aaaaaaさんがあなたの投稿にナイスしました

09/26 14:49

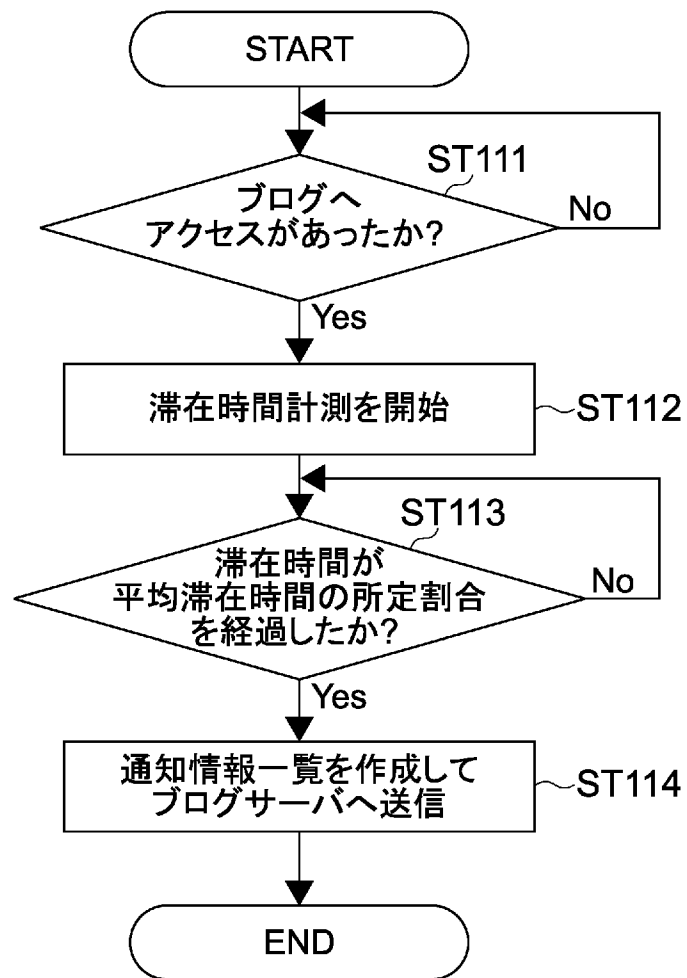
73

74

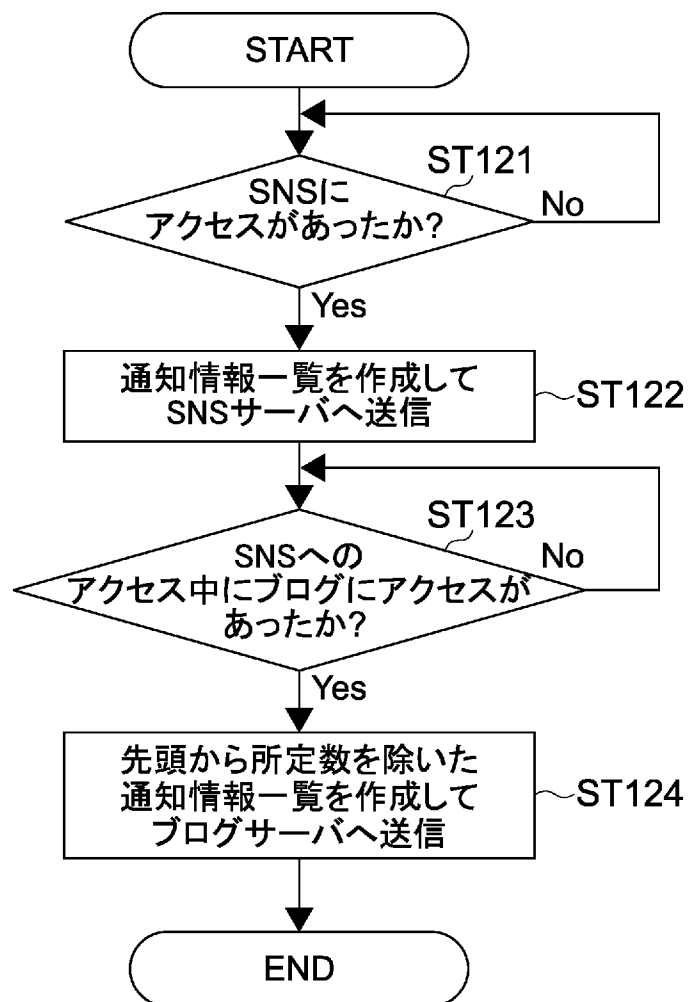
72

71

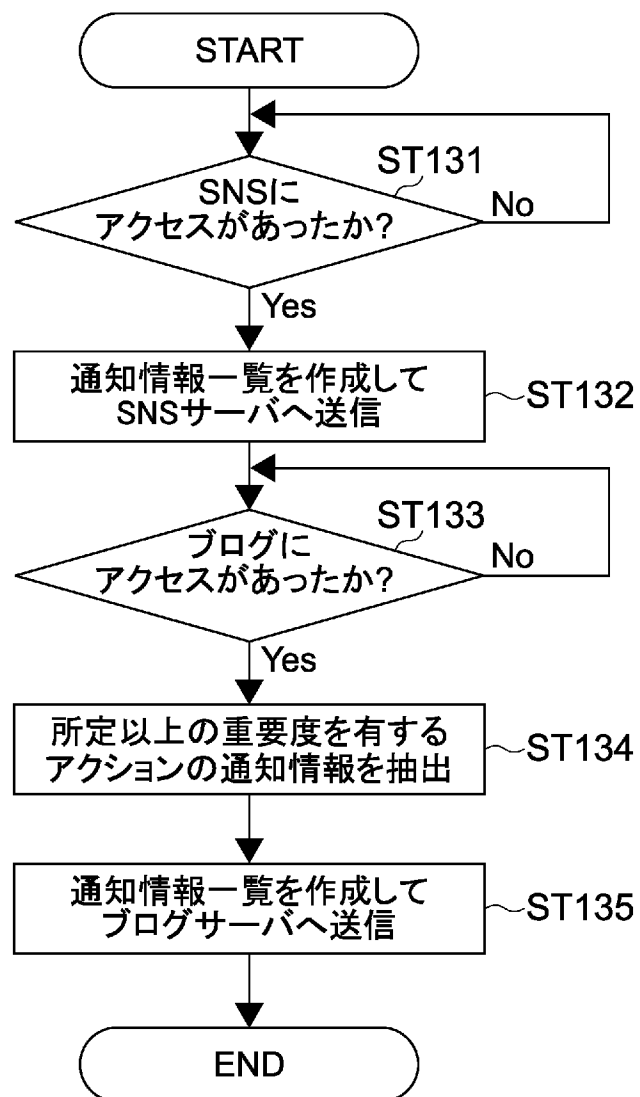
[図11]



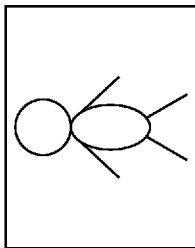
[図12]



[図13]

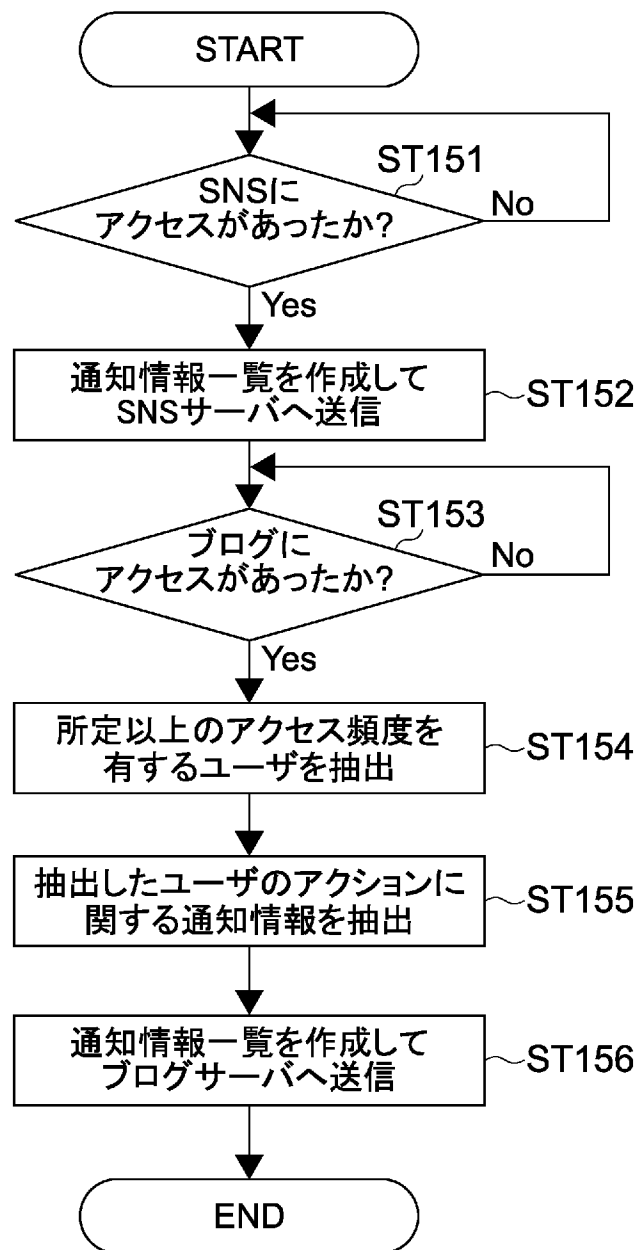


BLOG		ログアウト
トップ プロフィール 記事一覧 お問い合わせ		自分のブログを見る

TAROさん  日記を書く 写真館にアップロード レビューを書く	インフォメーション ○ ○ ○ ○ ○
SNSからのお知らせ(最大30件)	
Myメニュー ブログの管理 ④ 日記の編集・削除 ④ 日記の基本設定 ④ コメントの削除 ④ テーマの作成 ④ テーマの削除 ④ カテゴリの追加・編集 ④ ブログの基本情報	

ユーザー名	操作	日時
bbbbbbさんがあなたをフォローしました	解除	09/15 3:30
ffffさんがあなたをフォローしました	解除	09/13 1:30
gggggさんがあなたをフォローしました	解除	09/12 2:15
hhhhhさんがあなたをフォローしました	解除	09/12 1:12
iiiiさんがあなたをフォローしました	解除	09/11 10:51
jjjjさんがあなたをフォローしました	解除	09/10 18:43
kkkkkさんがあなたをフォローしました	解除	09/10 22:19

[図15]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/001500

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

G06Q30/02 (2012.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

G06Q30/02

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2013

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2013 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2013

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2013-003771 A (Hideki TOMITA), 07 January 2013 (07.01.2013), entire text; all drawings (Family: none)	1-10
A	JP 2009-230725 A (Fujitsu Ltd.), 08 October 2009 (08.10.2009), entire text; all drawings & US 2009/0248818 A1	1-10
A	Triple A Android Apuri, Linux100%, vol.17, 01 May 2012 (01.05.2012), vol.17, page 75	1-10

☐

Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐

See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

02 May, 2013 (02.05.13)

Date of mailing of the international search report

14 May, 2013 (14.05.13)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. G06Q30/02 (2012.01) i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. G06Q30/02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 3 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 3 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 3 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2013-003771 A（富田 英揮）2013.01.07, 全文、全図（ファミリーなし）	1-10
A	JP 2009-230725 A（富士通株式会社）2009.10.08, 全文、全図 & US 2009/0248818 A1	1-10
A	トリプルA Androidアプリ, Linux 100% Vol. 1. 17, 2012.05.01, 第17巻, 第75ページ	1-10

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

0 2 . 0 5 . 2 0 1 3

国際調査報告の発送日

1 4 . 0 5 . 2 0 1 3

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

小原 正信

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 5 6 2

5 L

3 8 0 3